

Arcserve UDP 8.1 新機能ガイド

Arcserve UDP 8.1

オンプレミスの物理/仮想環境からクラウドまで、あらゆるニーズに応える 統合バックアップ・リカバリソリューション

<Arcserve UDP 8.1 の 主な新機能・拡張機能>

Arcserve UDP 8.1 の主な新機能/機能拡張は以下の通りです：

Arcserve UDP コンソールの多要素認証（MFA）対応

Arcserve UDP の管理コンソールである「Arcserve UDP コンソール」へのログインに多要素認証（MFA）を使用できます。MFA を有効にすると、従来のユーザ名/パスワードに加え、2 つ目の要素として時間ベースまたは電子メールベースのワンタイム パスワードを使用して認証が行われます。これにより、Arcserve UDP コンソールを公開しているバックアップのセキュリティが強化されます。

Wasabi Hot クラウドストレージ および Nutanix Objects のオブジェクトロック対応

復旧ポイント^{*4}のコピー先としてオブジェクトロックが有効になった「Wasabi Hot クラウドストレージ」および「Nutanix Objects」をサポートします。これにより、バックアップ データをランサムウェアなどの脅威から保護できます。

CentOS 8.x ベースのカスタム Live CD

Linux 環境でのベアメタル復旧^{*5}に使用するカスタム Live CD を、新たに CentOS 8.x ベースでも作成できるようになりました。これにより、CentOS 8.x 環境に適合したドライバを Live CD に組み込めます。Red Hat Enterprise Linux 8.x 系の Linux ディストリビューションを導入しているお客様からのご要望を受け実現しました。

レポート機能強化

- ・ジョブ ステータス レポート：特定の日付範囲に基づいて表示するための日付範囲フィルタの追加
- ・RPO（Recovery Point Objective）^{*6} レポート：復旧ポイントの月別/週別/日別/カスタム分布

その他機能拡張

- SMB マルチ チャネルが有効な環境でのリストア用ネットワークの指定機能
- Microsoft SQL Server Filestream のリストア
- コマンドラインツール (as_gddmgr.exe) による GUID ボリュームのサポート
- Debian 10.9 など新しいプラットフォームのサポート
- SQL Server Express や Tomcat などのサードパーティ コンポーネントの更新

*1 オブジェクトロックは、オブジェクトが削除または上書きされることを一定期間または無期限に防止する機能。

*2 Wasabi Hot クラウドストレージは、Wasabi Technologies が提供するクラウド オブジェクトストレージ。

*3 Nutanix Objects は、Nutanix 社の提供するオブジェクトストレージサービス。

*4 復旧ポイントは、バックアップを実行するたびに作成されるバックアップデータのこと。

*5 「ベアメタル」とは、OS やソフトウェアなどがインストールされていないまっさらなハード ディスク（物理サーバー）のこと。「ベアメタル復旧」は、OS とソフトウェアの再インストール、その後のデータや設定のリストアなど、「ベアメタル」からコンピュータ システムをリストアするプロセスです。

*6 RPO (Recovery Point Objective) は、障害発生時、過去の「どの時点まで」のデータを復旧させるかの目標値。

Copyright © 2021 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved. Arcserve の許可なく、複製・配布を禁止します。Linux®は、米国およびその他の国のLinus Torvalds の登録商標です。Windows は、米国およびその他の国のMicrosoft 社の登録商標です。その他すべての商標、商標名、ロゴはそれぞれの会社に帰属します。